

教科	国語	科目	現代の国語	履修年次	1	単位	2	必・選
備考	G							
教科書	精選現代の国語（三省堂）							
副教材等	筑摩書房『読解 評論文キーワード』 浜島書店『ことばを広げる 新漢字ノート』 数研出版『クリアカラー国語便覧』							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
内容のまとめ	〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	授業中の活動状況、各種ふり返り記述、パフォーマンス課題 等

評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。
備考： 課題の提出状況や日常の授業態度に問題がある場合は、単元に対する評価に加えて諸事情についても考慮して最終的な評定については成績づけを行う。	

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	一 知らないものに出会う 【話すこと・聞くこと】 ・話題の設定 ・構成の検討・考えの形成 等 二 相手のことを考える 【書くこと】 ・題材の設定 ・内容の検討 ・考えの形成 等 ※漢字練習や現代文キーワード集の学習	五 ワールド・カフェ 【話すこと・聞くこと】 ・内容の検討 ・構造と内容の把握、精査・解釈 等 六 思考の枠組みを広げる 【読むこと】 ・構造と内容の把握 ・精査・解釈 ・考えの形成 ・共有 等	九 生命について考える 【書くこと】 ・考えの形成 ・記述 ・推敲 ・共有 ・情報と情報との関係 ・情報の整理 十 多文化共生社会と「私」 【読むこと】 ・精査・解釈 ・考えの形成 ・共有 ・情報と情報との関係 ・情報の整理 等
期末考査	三 情報社会を生きる 【読むこと】 ・構造の把握と内容の把握 ・考えの形成 等 四 言葉を見つめる 【書くこと】 ・情報の収集 ・内容の検討 等	七 科学技術と人間 【書くこと】 ・情報の収集 ・内容の検討 ・推敲 ・共有 等 八 マイクロディベート 【話すこと・聞くこと】 ・情報の収集 ・話し合いの進め方の検討 ・情報と情報との関係 ・情報の整理 等	
備考	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また、教科書以外の資料(実用的な文章等)を用いて授業する場合もあります。	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また、教科書以外の資料(実用的な文章等)を用いて授業する場合もあります。	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また、教科書以外の資料(実用的な文章等)を用いて授業する場合もあります。

教科	国語	科目	言語文化	履修年次	1	単位	3	必・選
備考	G							
教科書	精選言語文化（三省堂）							
副教材等	数研出版『クリアカラー国語便覧』 いっずな書店『精説漢文』『古文単語 330』『明快古典文法』							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
内容のまとめ	〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと B 読むこと		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	授業中の活動状況、各種振り返り記述、パフォーマンス課題 等
	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		

備考： 課題の提出状況や日常の授業態度に問題がある場合は、単元に対する評価に加えて諸事情についても考慮して最終的な評価については成績づけを行う。

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	古文入門 (文法) 歴史的仮名遣い 動詞 読むこと 物語 読むこと 漢文入門 漢文の世界へ 読むこと 近 小説	読むこと 日記・紀行 (文法) 助動詞 読むこと 故事成語 読むこと 近 韻文 詩	読むこと 軍記物語 (文法) 敬語 読むこと 漢詩 読むこと 近 小説
期末考査	読むこと 随筆 (文法) 形容詞 形容動詞 書くこと…随筆 読むこと 漢文入門 漢文の基本構造と訓読	読むこと 物語 和歌の修辞技巧 (文法) 助詞 書くこと…和歌 読むこと 史話	
備考	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また教科書以外の資料を用いて授業をする場合もあります。	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また教科書以外の資料を用いて授業をする場合もあります。	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また教科書以外の資料を用いて授業をする場合もあります。

教科	地歴公民	科目	歴史総合	履修年次	1	単位	2	㊦・選
備考	G・G選抜・S							
教科書	明解 歴史総合 (帝国書院)							
副教材等	なし							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
内容のまとめ	A 歴史の扉 B 近代化と私たち C 国際秩序の変化や大衆化と私たち D グローバル化と私たち		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、この科目で取り上げる諸事象と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現すること。	情報を受け身の姿勢で取り入れるのではなく、知的好奇心や批判的精神を持ち自分としての意見を確立し、他者へ情報発信する一方で、他者の考えを尊重することで自己肯定感を涵養するとともに他者理解を深め、よりよい社会を形成する一員となること。
評価方法	定期考査・小テスト	定期考査・小テスト・レポートの内容、発問評価、授業態度	振り返りシートの内容・レポートの内容、発問評価
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	【1部 歴史の扉】 歴史と私たち 【2部 近代化と私たち】 帝国主義と世界の一体化 4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 1 「西洋の衝撃」と西アジアの変化 2 南・東南アジアの植民地化 3 ヨーロッパの日本接近とアヘン戦争 4 黒船の来航と日本の対応 5 新体制の模索と江戸幕府の滅亡	【3部 国際秩序の変化や大衆化への問い】 1章 第一次世界大戦と日本の対応 1 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 2 総力戦となった第一次世界大戦 3 ロシア革命と大戦の終結 2章 国際協調と大衆社会の広がり 1 ヴェルサイユ体制の成立 2 東アジアの民族自決の行方 3 中東・インドの民族自決の影響	3章つづき 5 第二次世界大戦の展開 6 戦局の悪化と被害の拡大 7 第二次世界大戦の終結とその惨禍 4章 再出発する世界と日本 1 戦後の新たな国際秩序 2 冷戦の始まり 3 日本撤退後の東アジア 4 日本の改革と独立の回復 「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り 現代的な諸課題と結び付けて考えよう！
期末考査	5章 近代化が進む日本と東アジア 1 新政府の誕生 2 近代国家を目指す日本 3 日本と清の近代化と日清戦争 4 列強の中国進出と日露戦争 5 日露戦争が与えた影響	2章つづき 4 ヨーロッパの復興と大衆の政治参加 5 大衆社会の出現とアメリカの繁栄 6 日本における大衆社会の形成 3章 日本の行方と第二次世界大戦 1 世界恐慌が与えた影響 2 ファシズムの台頭と拡大 3 政党政治の断絶と満州事変 4 日中戦争の始まり	【4部 グローバル化と私たち】 1章 冷戦で揺れる世界と日本 1 アメリカ・ソ連の緊張緩和 2 冷戦下における日本の復興 3 第3勢力の形成と脱植民地化 4 中東戦争とパレスチナ問題 2章 多極化する世界
備考			

教科	地歴公民	科目	地理総合	履修年次	1	単位	2	必
備考	G・G 選抜・S							
教科書	高等学校 「新地理総合」 (帝国書院)							
副教材等	「新詳高等地図」 (帝国書院)							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	＊様々な地球的課題に関して問題の原因を正確に見極める力を身に着け、一定の見識が持てるようになる。 ＊近年多発する自然災害に関して、正確かつ最新の情報・知識を学び、地域との共生・共存の方法を模索する。		
内容のまとめ	第1部：地図でとらえる現代世界 第2部：国際理解と国際協力 第3部：持続可能な地域づくりと私たち		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。また、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	定期考査・長期休業中の提出物・プレゼン等の発表内容・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・長期休業中の提出物・プレゼン等の発表内容・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・長期休業中の提出物・プレゼン等の発表内容・小テスト・レポートの内容 等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム 1節 地球上の位置と時差 2節 地図の役割と種類	2節 世界の気候と人々の生活 3節 世界の言語・宗教と人々の生活	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害と防災 5節 自然災害への備え
期末考査	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活	第2章 地球的課題と国際協力 2節 地球環境問題 3節 資源・エネルギー問題 4節 人口問題 5節 食料問題	
備考			

教科	数学	科目	数学 I	履修年次	1	単位	3	⑥・選
備考	G (高入)							
教科書	数研出版 高等学校 数学 I ・高等学校 数学 II							
副教材等	数研出版 REPEAT 数学 I +A・REPEAT 数学 II +B							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力育成することを目指す。		
内容のまとめ	(1)数と式 (2)2次関数 (3)図形と計量 (4)データの分析 (5)複素数と方程式		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連性を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
評価方法	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	学習プリントや課題・レポート等への取り組み内容 など
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算 ① 多項式の加法と減法 ② 多項式の乗法 ③ 因数分解 ○発展 3次式の展開と因数分解 第2節 実数 ④ 実数 ○研究 数直線上の2点間の距離 ⑤ 根号を含む式の計算 ○発展 2重根号 第3節 1次不等式 ⑥ 不等式の性質 ⑦ 1次不等式 ⑧ 絶対値を含む方程式・不等式 ○研究 絶対値と場合分け	数学Ⅰ 第3章 2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式 ⑤ 2次方程式 ⑥ 2次関数のグラフとx軸の位置関係 ○発展 放物線と直線の共有点 ⑦ 2次不等式 ○研究 絶対値を含むグラフ 第4章 図形と計量 第1節 三角比 ① 三角比 ② 三角比の相互関係 ③ 三角比の拡張	数学Ⅰ 第5章 データの分析 ④ 分散と標準偏差 ○研究 変量の変換 ⑤ 2つの変量の間関係 ○研究 統計的探究プロセス ⑥ 仮説検定の考え方 ○研究 仮説検定と反復試行の確率 数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 ① 複素数とその計算 ② 2次方程式の解 ③ 解と係数の関係 第2節 高次方程式 ④ 剰余の定理と因数定理 ○研究 組立除法 ⑤ 高次方程式 ○発展 3次方程式の解と係数の関係
期末考査	数学Ⅰ 第2章 集合と命題 ① 集合 ○研究 3つの集合と共通部分と和集合 ② 命題と条件 ③ 命題と証明 ○研究 $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明 ○発展 「すべて」と「ある」の否定 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ ① 関数とグラフ ② 2次関数のグラフ ○研究 グラフの平行移動 ○研究 グラフの対称移動 第2節 2次関数の値の変化 ③ 2次関数の最大・最小 ④ 2次関数の決定	数学Ⅰ 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 ④ 正弦定理 ⑤ 余弦定理 ⑥ 正弦定理と余弦定理の応用 ⑦ 三角形の面積 ○発展 ヘロンの公式 ⑧ 空間図形への応用 ○研究 正四面体の体積 第5章 データの分析 ① データの整理 ② データの代表値 ○研究 データの分布と代表値 ③ データの散らばりと四分位数	
備考			

教科	数学	科目	数学 I	履修年次	1	単位	3	⑥・選
備考	G (内進)							
教科書	数研出版 高等学校 数学 I ・高等学校 数学 II							
副教材等	数研出版 REPEAT 数学 I + A ・ REPEAT 数学 II + B							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力育成することを目指す。		
内容のまとめ	(1)2 次関数 (2)図形と計量 (3)データの分析 (4)複素数と方程式 (5)指数関数		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連性を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
評価方法	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	学習プリントや課題・レポート等への取り組み内容 など
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	数学Ⅰ 第3章 2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式 ⑦ 2次不等式 ○研究 絶対値を含むグラフ 第4章 図形と計量 第1節 三角比 ① 三角比 ② 三角比の相互関係 ③ 三角比の拡張	数学Ⅰ 第5章 データの分析 ④ 分散と標準偏差 ○研究 変量の変換 ⑤ 2つの変量の間の関係 ○研究 統計的探究プロセス ⑥ 仮説検定の考え方 ○研究 仮説検定と反復試行の確率 数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 ① 複素数とその計算 ② 2次方程式の解 ③ 解と係数の関係	数学Ⅱ 第5章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数 ① 指数の拡張 ○発展 負の数の n 乗根 ② 指数関数
期末考査	数学Ⅰ 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 ④ 正弦定理 ⑤ 余弦定理 ⑥ 正弦定理と余弦定理の応用 ⑦ 三角形の面積 ○発展 ヘロンの公式 ⑧ 空間図形への応用 ○研究 正四面体の体積 第5章 データの分析 ① データの整理 ② データの代表値 ○研究 データの分布と代表値 ③ データの散らばりと四分位数	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 第2節 高次方程式 ④ 剰余の定理と因数定理 ○研究 組立除法 ⑤ 高次方程式 ○発展 3次方程式の解と係数の関係	
備考			

教科	数学	科目	数学 A	履修年次	1	単位	3	⑥・選
備考	G (高入)							
教科書	数研出版 高等学校 数学 A・高等学校 数学 II							
副教材等	数研出版 REPEAT 数学 I + A・REPEAT 数学 II + B							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力育成することを目指す。		
内容のまとめ	(1)場合の数と確率 (2)図形の性質 (3)式と証明 (4)図形と方程式		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連性を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 数学における基本的な概念 や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
評価方法	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	学習プリントや課題・レポート等への取り組み内容 など
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	数学 A 準備 集合 第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 組合せ ○研究 重複を許して 作る組合せ	数学 A 第 2 章 図形の性質 第 1 節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・ メネラウスの定理 ○研究 チェバの定理の逆・ メネラウスの定理の逆 ○研究 三角形の辺と角 4 円に内接する四角形 5 円と直線 ○研究 法ベキの定理の逆 6 2つの円 7 作図 ○研究 正五角形の作図 ○研究 図形描画ソフトを 活用して作図の方針を立てる 第 2 節 空間図形 8 直線と平面 9 空間図形と多面体 ○研究 正多面体の体積 ○研究 正多面体の種類	数学 II 第 3 章 図形と方程式 第 1 節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 ○研究 2直線の交点を 通る直線 第 2 節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 ○研究 2直線の交点を 通る図形 第 3 節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域 ○研究 放物線を境界線と する領域
期末考査	数学 A 第 1 章 場合の数と確率 第 2 節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 ○研究 原因の確率 9 期待値	数学 II 第 1 章 式と証明 第 1 節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 ○研究 $(a+b+c)^n$ の 展開式 3 多項式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式 ○研究 代入による 恒等式の係数決定 第 2 節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明	
備考		※数学 A 第 3 章 数学と人間活動の 内容はゼミ等で行う予定	

教科	数学	科目	数学 A	履修年次	1	単位	3	⑤・選
備考	G (内進)							
教科書	数研出版 高等学校 数学 A・高等学校 数学 II							
副教材等	数研出版 REPEAT 数学 I + A・REPEAT 数学 II + B							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力育成することを目指す。		
内容のまとめ	(1)場合の数と確率 (2)図形の性質 (3)数学と人間の活動 (4)式と証明 (5)図形と方程式		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連性を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 数学における基本的な概念 や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
評価方法	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	学習プリントや課題・レポート等への取り組み内容 など
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	数学 A 第 1 章 場合の数・確率 第 2 章 平面図形 の復習 第 3 章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 素数と素因数分解 3 最大公約数・最小公倍数 4 整数の割り算	数学 II 第 1 章 式と証明 第 1 節 式と計算 1 3 次式の展開と因数分解 2 二項定理 ○研究 $(a+b+c)^n$ の展開式 3 多項式の割り算 4 分数式とその計算 5 恒等式 ○研究 代入による恒等式の係数決定 第 2 節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明	数学 II 第 3 章 図形と方程式 第 3 節 軌跡と領域 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域 ○研究 放物線を境界線とする領域
期末考査	数学 A 第 3 章 数学と人間の活動 5 ユークリッドの互除法 6 1 次不定方程式 7 記数法 8 座標の考え方 ○研究 2 点間の距離 9 ゲーム・パズルの中の数学 ○補足 合同式 ○補足 互除法の原理の証明	数学 II 第 3 章 図形と方程式 第 1 節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2 直線の関係 ○研究 2 直線の交点を通る直線 第 2 節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2 つの円 ○研究 2 直線の交点を通る図形	
備考			

教科	理科	科目	化学基礎	履修年次	1	単位	2	必
備考	Gクラス							
教科書	高校学校 化学基礎（第一学習社）							
副教材等	セミナー化学基礎（第一学習社）							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
内容のまとめ	1、化学と人間生活 2、物質の構成 3、物質の変化		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	物質の成り立ちや、原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解する。化学結合と物質の性質との関連性を理解し、物質について微視的な見方ができるようにする。化学反応の量的関係、酸と塩基の反応、酸化還元反応の基本的概念や法則を理解することができるようにする。	物質の成り立ちや、原子の構造及び電子配置と周期律の関係を考え、判断し、表現できるようにする。化学結合と物質の性質との関連性を考え判断し、表現できるようにする。化学反応の量的関係、酸と塩基の反応、酸化還元反応の基本的概念や法則を考え、様々な場面で表現することができるようにする。	原子の構造及び電子配置と周期律の関係を生かし、化学結合と物質の性質との関連性を考え、日常生活の物質について理解を深めようと様々な手段を用いてできるようにする。化学反応の量的関係、酸と塩基の反応、酸化還元反応の基本的概念や法則を実験の実験や議論に生かそうとする姿勢を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	物質の成り立ちや、原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解している。化学結合と物質の性質との関連性を理解し、物質について微視的な見方ができる。化学反応の量的関係、酸と塩基の反応、酸化還元反応の基本的概念や法則を理解することができている。	物質の成り立ちや、原子の構造及び電子配置と周期律の関係を考え、判断し、表現できる。化学結合と物質の性質との関連性を考え判断し、表現できる。化学反応の量的関係、酸と塩基の反応、酸化還元反応の基本的概念や法則を考え、様々な場面で表現することができる。	原子の構造及び電子配置と周期律の関係を生かし、化学結合と物質の性質との関連性を考え、日常生活の物質について理解を深めようとする。化学反応の量的関係、酸と塩基の反応、酸化還元反応の基本的概念や法則を実験の実験や議論に生かそうとする。
評価方法	定期考査・小テスト 等	定期考査・小テスト・レポートの内容・課題提出 等	定期考査・レポートの内容・課題提出 等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考:			

2 学習单元

单元学习内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	序章 化学と人間生活 1. 人間生活の中の化学 2. 化学とその役割 第 I 章 物質の構造 第1節 物質の成分と構成元素 1. 物質の成分 2. 物質の構成元素	第 II 章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 1. 原子量・分子量と式量 2. 物質質量 3. 溶解と濃度 4. 状態変化と気体の圧力 5. 化学変化と化学の基本法則	第3節 酸化還元反応 1. 酸化と還元 2. 酸化剤と還元剤の反応 3. 金属のイオン化傾向 4. 酸化還元反応の利用 5. 電池 6. 電気分解
期末考査	第2節 原子の構造と 元素の周期表 1. 原子の構造 2. 元素の相互関係 第3節 物質と化学結合 1. イオンとイオン結合 2. 分子と共有結合 3. 金属と金属結合 4. 結晶の比較 5. 金属の結晶格子	第2節 酸と塩基の反応 1. 酸と塩基 2. 水素イオン濃度 3. 中和と塩 4. 中和滴定	
備考			

教科	理科	科目	物理基礎	履修年次	1	単位	2	必
備考	G							
教科書	高等学校 物理基礎（第一学習社）							
副教材等	ネオパルノート 物理基礎（第一学習社）							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	物理学的思考を身に着ける。 物理現象を理解し、数式を使って説明できる。 物理の問題の「解き方を記憶する」のではなく、「解き方を理解」し「問題を解く力」を身につける。		
内容のまとめ	1, 物理と人間生活 2, 物体の運動とエネルギー 3, 様々な物理現象		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、導き出される公式を正しく用い、結果を求めることができるようにする。	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、結果、式を元に考察を行い自分の言葉で表現できるようにする。	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考えについて物理学的に探究する能力を育てる。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	観察、実験などを通して原理・法則を見いださせるとともに、基本的な概念を理解させ、その理解を元に新たな事象の解釈に応用できるようにする。	物理学特有の考え方や物理学的に探究する方法を学ぶとともに、物理学の果たす役割を理解させ、物理に対する興味・関心を高め、それらを自らの表現方法のひとつとして利用する。	習得した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理がかかわる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を育てようとする
評価方法	小テストでの問題演習、実験のレポートの結果、課題提出等	レポートの考察、小テストの記述等	学習ノートの提出、実験レポートの考察等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A）、およそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B）、およそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考： 感染症の状況により、実験の実施には変更が入る。上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	速度・相対速度 等速直線運動 ◎ 等速直線運動のグラフを読む。 加速度・等加速度直線運動 ◎ グラフの読み方・公式の使い方を覚える。	仕事 仕事率 運動エネルギーと位置エネルギー ◎ エネルギーと仕事の関係を理解する。 ◎ エネルギー保存の法則が使える。	音の3要素 弦と管の定常波 ◎ 気柱の振動を考える。 ◎ 弦の振動を考える。 電荷・電気量・電流 ◎ 電荷・電気量・電流の概念を理解する。 オームの法則 ◎ 電位差と抵抗と電流の関係を覚える。
期末考査	重力加速度・自由落下 上方投射 ◎ 運動の様子を把握し、物理的に考える力をつける。 力の表し方（力とベクトル） 力の合成 フックの法則（ばねと力の大きさ） 運動の3法則 （慣性の法則・運動方程式・作用反作用の法則） ◎ 力を数値化し、計算できるようにする。 張力・摩擦力・圧力・浮力 ◎ 力の問題を解く。	温度と熱 比熱と熱量 ◎ 熱エネルギーと物体の温度変化について考える。 波の速さ・波の振動数・波の周期・横波と縦波 ◎ 水面・弦を例に波動の基礎を固める。	
備考			

教科	保健体育	科目	体育	履修年次	1	単位	2	必・選
備考	全コース							
教科書	新高等保健体育(大修館書店)							
副教材等	新高等保健体育ノート(大修館書店)							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。		
内容のまとめ	体づくり運動、体育祭種目 体力テスト 体育理論 陸上競技・ダンス テニス・バスケットボール・サッカー		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競走や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。	運動における競走や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲が備わり、健康・安全を確保して継続して運動に親しむ態度が身に付いている。
評価方法	実技試験、保健体育ノート等	実技試験、保健体育ノート等	授業中の取り組みや発言、等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A），およそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B），およそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考：上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
前半	・オリエンテーション ・集団行動、体づくり運動 ・体育祭種目	・体育理論 ・選択種目 テニス バスケットボール サッカー バレーボール ・必修種目 陸上競技	・選択種目 テニス バスケットボール サッカー バレーボール ・必修種目 陸上競技
後半	・体力テスト ・体育理論	・体育理論 ・選択種目 テニス バスケットボール サッカー バレーボール ・必修種目 陸上競技 ダンス(女子)	
備考	コロナ感染状況によって種目の変更があります。		

教科	保健体育	科目	保健	履修年次	1	単位	1	必・選
備考	全コース							
教科書	新高等保健体育(大修館書店)							
副教材等	新高等保健体育ノート(大修館書店)							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。		
内容のまとめ	健康の考え方 現代の感染症とその予防 生活習慣病などの予防と回復 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 精神疾患の予防と対策 生涯の各段階における健康		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	定期考査、ワークシート、保健体育ノート等	定期考査、ワークシート、保健体育ノート等	授業中の発表、保健体育ノート等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A），およそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B），およそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考： 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
期末考査	健康の考え方 ・日本における健康課題の変遷 ・健康の考え方と成り立ち ・ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり ・健康に関する意思決定・行動選択 現代の感染症とその予防 ・現代における感染症の問題 ・感染症の予防 ・性感染症・エイズとその予防	生活習慣病などの予防と回復 ・生活習慣病の予防 ・身体活動・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・がんの予防と回復 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 精神疾患の予防と対策 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患への対応	生涯の各段階における健康 ・思春期と健康 ・性意識の変化と性行動の選択 ・結婚生活と健康 ・妊娠・出産と健康 ・家族計画
備考			

教科	芸術	科目	音楽	履修年次	1	単位	2	必・選
備考	G・G選抜・S							
教科書	MOUSA I（教育芸術社）							
副教材等								

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
内容のまとめ	A 各科目の特質についての理解と、表現するための技能 B 創造的な表現への工夫と、芸術のよさや美しさを深く味わう心 C 生涯にわたり芸術を愛好する心情、心豊かな生活や社会を創造していく態度		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をすることができる。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴く力を養う。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解しているとともに、創意工夫を生かした音楽表現をしている。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫し、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いている。	生涯にわたり音楽を愛好し音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにするために、主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組んでいる。
評価方法	実技テスト・発表会、小テスト、プリントなど	練習態度、実技テスト・発表会、プリントなど	練習態度、プリントなど
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	〔楽典〕 ・楽譜の読み方 ・ソルフェージュ 〔歌唱〕 ・発声法 ・声域、声種について ・2 部合唱 (翼をくださいなど) 〔器楽〕 ・ボディパーカッション 〔創作〕 ・伴奏付け(キーボード) 〔鑑賞〕 ・舞台芸術 (オペラなど)	〔楽典〕 ・楽譜の読み方 ・ソルフェージュ 〔歌唱〕 ・2 部合唱、3 部合唱 〔器楽〕 ・伴奏付け(キーボード) ・バンドアンサンブル 〔鑑賞〕 ・ベートーベン交響曲第 9 番	〔楽典〕 ・ソルフェージュ 〔歌唱・器楽・創作〕 ・アンサンブル 〔鑑賞〕 ・舞台芸術 (ミュージカルなど)
期末考査			
備考			

教科	芸術	科目	書道	履修年次	1	単位	2	必・選
備考	G・G選抜・S							
教科書	東京書籍「書道Ⅰ」							
副教材等								

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
内容のまとめ	A 各科目の特質についての理解と、表現するための技能 B 創造的な表現への工夫と、芸術のよさや美しさを深く味わう心 C 生涯にわたり芸術を愛好する心情、心豊かな生活や社会を創造していく態度		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解し、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えている。	生涯にわたり書を愛好し書を通じて心豊かな生活や社会を創造するため、主体的に書の幅広い活動に取り組んでいる。
評価方法	作品、プリントなど	練習態度、作品、プリントなど	練習態度、プリントなど
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考:			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	・ 用具用材について ・ 書道と書写の違いと臨書について ・ 楷書の学習 ・ 九成宮醴泉銘の臨書 ・ 雁塔聖教序の臨書 ・ 自書告身の臨書 ・ 硬筆の書き方について ・ 漢字仮名交じりの書について	・ 篆刻の学習 ・ 行書の学習 ・ 蘭亭序について ・ 風信帖の臨書	・ 仮名の学習 仮名の単体について 仮名の連綿について ・ 変体仮名について ・ 高野切第三種の臨書 ・ 散らし書きへの展開 ・ 和綴じの仕方について
期末考査			
備考			

教科	芸術	科目	美術	履修年次	1	単位	2	必・選
備考	G・G選抜・S							
教科書	光村図書 「美術1」							
副教材等								

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と 豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
内容のまとめ	A 各科目の特質についての理解と、表現するための技能 B 創造的な表現への工夫と、芸術のよさや美しさを深く味わう心 C 生涯にわたり芸術を愛好する心情、心豊かな生活や社会を創造していく態度		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方をすることができる。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方をしている。	生涯にわたり美術を愛好し心豊かな生活や社会を創造していくため、主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。
評価方法	作品、プリントなど	練習態度、作品、プリントなど	練習態度、プリントなど
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A）、おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B）、おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考：			

2 学習单元

单元学习内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	・デッサン〔人物画〕 鉛筆の削り方 人体の形の理解 ・エッチング〔風景画〕 版画の種類 風景のスケッチ プレス機での転写 ニードルでの描写 銅板の腐食 刷り	・デザイン・色彩 光の三原色、三要素 ・抽象立体〔木彫り〕 刃物・万力の取り扱い アイデアスケッチ	抽象立体〔木彫り〕 刃物・万力の取り扱い アイデアスケッチ
期末考査			
備考			

教科	外国語	科目	英語コミュニケーション I	履修年次	1	単位	4	必・選
備考	G・G 選抜・S							
教科書	ELEMENT English Communication I							
副教材等	サブノート、CNN（選抜クラス）							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 具体的な言語活動は以下の通りである。 1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。		
	1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度 教科書など様々な英文の記事に関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする 2. 外国語表現の能力 適切な語句や文法を用いて、話したり書いたりしながら、自分の考えを的確に表現している。 3. 外国語理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、相手の意向などを適切に理解している。 4. 言語や文化についての知識・理解 英語学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけ、その背景にある文化などの状況も適切に理解している。		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・4技能5領域（聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり）・話すこと（発表）・書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基本的な語彙、文法、構文の知識を身につけ、活用することができる。 ・言語学習を通じて、言語の働きや役割を適切に理解することができる。	・場面、目的、状況等に応じて、日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを分析的に適切に理解し、論理的に的確に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたこと等を自分の意見や考え等を適切に話したり書いたりして伝えることができる。	・相手を尊重し、配慮しながら英語で聞いたり読んだりしたことを十分に活用し、自分の意見や考えを適切に話したり書いたりして表現しようとする。 ・言語や背景にある文化などの状況に対して積極的に関心を持ち、自律的、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	文法項目の特徴や決まりを理解し、英文の読み取りや聞き取りを適切に理解することができる。また、それを場面・状況を踏まえて、書いたり話したりしながら、相手に内容を適切に伝えるために既習の文法や語句の知識を活用することができるかを図る。 ペーパーテストやパフォーマンステスト等を有効的に活用する。	目的や場面、状況を設定した言語運用課題を通して、日常的・社会的な話題・内容について理解し、他者と自分の考えなどをパフォーマンステスト等で、どの程度表現し合うことができるかを図る。 その際、コミュニケーションの目的を設定し、内容およびタスクなどの課題を提供し、領域別の目標を共有する。	自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を主体的に進め、その過程を評価して新たな学習につなげるために自己調整を行いながら、粘り強く知識、技能を獲得したり、思考・判断・表現をしようとしたりしようと努力しているかを図る。 学習の振り返りシートなどを有効的に活用する。
評価方法	・定期考査 ・LEAP 単語テスト ・スタディサプリ ・提出物 / 課題	・定期考査 ・オンライン英会話 ・スピーキング課題/ライティング ・プレゼン ・GCP	・スタディサプリ English ・スタディサプリ ・オンライン英会話ポイント授業 ・推奨課題（長期課題） ・GCP

評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。
備考：	

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	Lesson 1 Intercultural Relationships ・地図・地形を表す語彙・表現 ・英語の 5 文型 ・受動態 ・to 不定詞 Lesson 2 前半 Love beyond Species ・ペットの世話に関する語彙・表現 ・現在完了/現在完了進行形 ・分詞の限定用法	Lesson 4 Messages for World Peace ・国際連合・平和維持活動に関する語彙・表現 ・過去完了形 ・知覚動詞 Lesson 5 前半 Respecting Each Other ・野球に関する語彙・表現 ・関係代名詞の what ・関係副詞	Lesson 7 Technology and Discoveries ・実験室に関する語彙・表現 ・形式主語の it ・be 動詞の補語になる that 節 Lesson 8 Standing Up for Human Rights ・人権・福祉に関する語彙・表現 ・仮定法過去 ・仮定法過去完了 ・過去完了進行形
期末考査	Lesson 2 後半 Love beyond Species ・ペットの世話に関する語彙・表現 ・現在完了/現在完了進行形 ・分詞の限定用法 Lesson 3 Contributing to Our Planet ・エネルギー・公害に関する語彙・表現 ・関係代名詞 ・使役動詞・to 不定詞	Lesson 5 後半 Respecting Each Other ・野球に関する語彙・表現 ・関係代名詞の what ・関係副詞 Lesson 6 Language and Culture ・英文の書き方に関する語彙・表現 ・国際連合 ・関係代名詞の限定用法 ・分詞構文	
備考			

教科	外国語	科目	論理と表現 I	履修年次	1	単位	2	必・選
備考	G・G 選抜・S							
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression I 桐原書店							
副教材等	総合英語 FACTBOOK これからの英文法 桐原書店							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。		
内容のまとめ	様々なトピック（①経済・社会、②環境・資源、③生活・健康、④消費・産業、⑤平和・公正）について分析的に思考し、基本的な文法事項を活用しながら、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの3つの領域において、論理的に表現すること力を養う。		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	基本的な文法事項を理解し、適切に使うことができる。	与えられた状況に合わせて、既習事項の文法事項を活用しながら、適切に表現することができる。	与えられたトピックに対して、主体的に考え、相手に理解してもらえるよう論理的に伝えようとしている。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・セレクト76 ・スタディサプリ ・提出物 / 課題	・定期考査 ・スピーキング課題/ライティング ・プレゼン	・スタディサプリ English ・スタディサプリ ・オンライン英会話ポイント授業 ・推奨課題（長期課題）
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A），おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B），おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	Unit 0 Get to know more about your classmates Unit 1 Smart home, smart city 【スタディーサプリ】 ※反転学習を推奨 ・文型と文の要素(1) ・文型と文の要素(2) ・時制(1)	Thinking Logically 2 Can you continue eco-friendly activities? Unit 5 Save food you can still eat! Unit6 How can we become more health-conscious? 【スタディーサプリ】 ※反転学習を推奨 ・不定詞(1) ・不定詞(2) ・動名詞(1) ・動名詞(2)	Unit 9 A variety of ways to improve your English Unit 10 How can we become foreigner-friendly? Thinking Logically 5 How can we make our community foreigner-friendly? 【スタディーサプリ】 ※反転学習を推奨 ・関係詞(1) ・関係詞(2) ・仮定法(1) ・仮定法(2)
期末考査	Unit 2 History and future of our town Thinking Logically 1 The town you want to live in in the future Unit 3 Preparing for a natural disaster Unit 4 Water supporting our lives 【スタディーサプリ】 ※反転学習を推奨 ・時制(2) ・助動詞(1) ・助動詞(2) ・受動態	Thinking Logically 3 What can we do to reduce food waste? Unit 7 How many clothes do you buy? Unit 8 How do you decide which products to buy? Thinking Logically 4 Think before you buy! 【スタディーサプリ】 ※反転学習を推奨 ・分詞(1) ・分詞(2) ・比較(1) ・比較(2)	
備考	スタディーサプリ動画と関連付けて授業を受ける。		

教科	情報	科目	情報 I	履修年次	1	単位	2	⑤・選
備考	全コース（グローバル・グローバル選抜・先端サイエンス）							
教科書	数研出版 高等学校 情報 I							
副教材等	なし							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。 【知識・技能】 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 【思考・判断・表現】 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。 【主体的に学習に取り組む態度】		
内容のまとめ	問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育むことを目指す。大きく以下の4項目から構成されている。 (1) 情報社会の問題解決 (2) コミュニケーションと情報デザイン (3) コンピュータとプログラミング (4) 情報通信ネットワークとデータの活用		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。	様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	定期考査・小テスト・提出物の内容 等	定期考査・小テスト・提出物の内容 等	定期考査・小テスト・提出物の内容 等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A)、おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B)、おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	第0編 情報Ⅰの内容とは？ 紙飛行機を例に用いて 第1編 情報社会の問題解決 ① 情報とメディア ② 情報社会における法とセキュリティ	第2編 コミュニケーションと情報デザイン ③ 情報デザイン ④ プレゼンテーション 第3編 コンピュータとプログラミング ① コンピュータのしくみ	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 ① ネットワークのしくみ ② データベース ③ データの分析 *プログラミング能力検定
期末考査	第1編 情報社会の問題解決 ③ 情報技術が社会に及ぼす影響 第2編 コミュニケーションと情報デザイン ① 情報のデジタル表現 ② コミュニケーション手段の発展と特徴 *プログラミング能力検定	第3編 コンピュータとプログラミング ② プログラミング ③ モデル化とシミュレーション *プログラミング能力検定	
備考	*授業内で、プログラミング能力検定を実施予定（6月）	*授業内で、プログラミング能力検定を実施予定（11月）	*授業内で、プログラミング能力検定を実施予定（2月）

教科	国語	科目	現代の国語	履修年次	2	単位	2	必・選
備考	G							
教科書	精選論理国語（三省堂）							
副教材等	筑摩書房『読解 評論文キーワード』 浜島書店『ことばを広げる 新漢字ノート』 数研出版『クリアカラー国語便覧』							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
内容のまとめ	〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと B 読むこと		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	授業中の活動状況、各種ふり返り記述、パフォーマンス課題 等

評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。
備考： 課題の提出状況や日常の授業態度に問題がある場合は、単元に対する評価に加えて諸事情についても考慮して最終的な評価については成績づけを行う。	

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	一 論理国語へのいざない ・構造と内容の把握 ・精査・解釈 ・情報の整理 二 「情報社会」を生きるⅠ ・精査・解釈 ・考えの形成 ・共有	三 環境問題を考える ・精査・解釈 ・情報と情報の整理 五 生命について考える ・情報の収集 ・考えの形成 ・情報と情報の整理	四 経済について考える ・考えの形成 ・推敲 ・共有 ・情報と情報との整理 ・情報の整理 五 国際社会を考える ・考えの形成 ・共有 ・情報の整理
期末考査	四 言葉をみつめるⅠ ・内容と構造の把握 ・精査・解釈 ・情報と情報との関係 六 芸術について考える ・題材の設定 ・情報の収集 ・内容の検討 ・考えの検討	七 科学技術と人間 ・構造と内容の把握 ・精査・解釈 ・考えの形成 一 「情報社会」を生きるⅡ ・考えの形成 ・共有 ・情報の整理	
備考	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また、教科書以外の資料(実用的な文章等)を用いて授業する場合もあります。	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また、教科書以外の資料(実用的な文章等)を用いて授業する場合もあります。	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また、教科書以外の資料(実用的な文章等)を用いて授業する場合もあります。

教科	国語	科目	古典探究	履修年次	2	単位	3	必・選
備考	G							
教科書	『精選古典探究 古典編』（三省堂）『精選古典探究 漢文編』（三省堂）							
副教材等	数研出版『クリアカラー国語便覧』いっずな書店『精説漢文』『古文単語 330』『明快古典文法』							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
内容のまとめ	〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 読むこと		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わる中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	授業中の活動状況、各種ふり返り記述、パフォーマンス課題 等
評価の判断基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A), おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B), おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考:			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	【古文】 説話 「古今著聞集」 敬語 和歌の修辞 随筆 「枕草子」 (漢詩「香炉峰下～」) 文学史 古典常識 敬語 【漢文】 故事成語 句形（使役）	【古文】 物語 「大鏡」 「伊勢物語」 敬語 文学史 古典常識 【漢文】 史伝 「鴻門の会」 句形（疑問・反語 抑揚・詠嘆）	【古文】 物語 「源氏物語」 文学史 古典常識 【漢文】 思想 ・ 孔子 ・ 孟子 ・ 荀子 句形（疑問・反語 仮定・否定 限定） 対句 思想史
期末考査	【古文】 随筆 「徒然草」 識別 文学史 仏教思想 【漢文】 小説 「桃花源記」 (思想「小国寡民」) 句形（限定・否定）	【古文】 日記 「更級日記」 識別 終助詞 呼応の副詞 文学史 【漢文】 史伝 「四面楚歌」 「項王最期」 句形（疑問・反語 仮定・詠嘆）	
備考			

教科	地理歴史	科目	日本史探究	履修年次	2	単位	3	必・選
備考	G(SA), G, G 選抜 ※いずれも文系日本史選択							
教科書	詳説日本史 日本史探究 (山川出版社)							
副教材等	最新 日本史図表 (第一学習社)							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
内容のまとめ	第Ⅰ部 原始・古代 第Ⅱ部 中世 第Ⅲ部 近世		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	定期考査・小テスト	定期考査・小テスト・レポートの内容など	定期考査・小テスト・レポートの内容など
評価の判断基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A）、おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B）、おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考：上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	第 1 章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 第 2 章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開	第 4 章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 第 5 章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 第 6 章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	第 9 章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化
期末考査	第 2 章 古墳とヤマト政権（続き） 2 飛鳥の朝廷 第 3 章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	第 7 章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場 第 8 章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	
備考			

教科	地理歴史	科目	世界史探究	履修年次	2	単位	3	必・選
備考	G(SA), G, G 選抜 ※いずれも文系世界史選択							
教科書	詳説世界史 世界史探究（山川出版社）							
副教材等	最新 グローバルワイド世界史図表（第一学習社）							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
内容のまとめ	第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 第Ⅲ部 諸地域の結合・変容 第Ⅳ部 地球世界の課題 2年次はここまで		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。 (地理歴史科共通)	地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。 (地理歴史科共通)	地理や歴史に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。 (地理歴史科共通)
評価方法	定期考査、小テスト	レポートの内容、発問評価	定期考査、提出課題、発問評価
評価の判断基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、 おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考查	第 1 章 文明の成立と古代文明の特質 ◎文明の誕生 ◎オリエント・南アジア・中国の古代文明 ◎南北アメリカ文明 第 2 章 中央ユーラシアと東アジア世界 ◎中央ユーラシア・草原とオアシスの世界 ◎秦・漢～東アジア文化圏の形成 第 3 章 南アジア世界と 東南アジア世界の展開 ◎仏教の成立～南アジアの統一国家 ◎インド古典文化とヒンドゥー教の定着 ◎東南アジア世界の形成と展開	第 7 章 ヨーロッパ世界の変容と展開 ◎西ヨーロッパの封建社会～東ヨーロッパ世界の展開 ◎西ヨーロッパ世界の変容と中世文化 第 8 章 東アジア世界の展開と モンゴル帝国 ◎アジア諸地域の自立化と宋・モンゴルの大帝国 第 9 章 大交易・大交流の時代 ◎アジア交易世界の興隆～ヨーロッパの海洋進出とその変容	第 12 章 産業革命と環大西洋革命 ◎産業革命、アメリカ・フランス革命、ナポレオンの支配 ◎中南米諸国の独立 第 13 章 イギリスの優位と 欧米国民国家の形成 ◎ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動、その再編 ◎アメリカ合衆国の発展 ◎世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄
期末考查	第 4 章 西アジアと地中海周辺国家形成 ◎イラン諸国家の興亡とその文明 ◎ギリシア人の都市国家・古代ローマ・キリスト教の成立と発展 第 5 章 イスラーム教の成立と ヨーロッパ世界の形成 ◎アラブの大征服～イスラーム政権の成立 ◎ヨーロッパ世界の形成 第 6 章 イスラーム教の伝播と 西アジアの動向	第 10 章 アジアの諸帝国の繁栄 ◎オスマン帝国～ムガル帝国の興隆 ◎清代の中国と隣接諸地域 第 11 章 近世ヨーロッパ世界の動向 ◎ルネサンスと宗教改革 ◎主権国家体制の成立 ◎蘭・英・仏の台頭 ◎北欧・東欧の動向 ◎科学革命と啓蒙思想	
備考			

教科	地歴公民	科目	地理探究	履修年次	2	単位	2	選択
備考	G・G 選抜							
教科書	「地理探究」(東京書籍)							
副教材等	「新詳高等地図」(帝国書院)							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
内容のまとめ	第1編：現代世界の系統地理的考察 第2編：現代世界の地誌的考察 第3編：現代世界と日本の国土像		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。また、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価方法	定期考査・長期休業中の提出物・プレゼン等の発表内容・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・長期休業中の提出物・プレゼン等の発表内容・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・長期休業中の提出物・プレゼン等の発表内容・小テスト・レポートの内容 等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A)、およそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B)、およそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	第1章 自然環境 ○世界の地形 ○気候と自然環境	○農林水産業 ○食料問題 ○エネルギーと鉱産資源 ○資源・エネルギー問題	第4章 人口、村落・都市 ○人口 ○人口問題 ○村落・都市 ○居住・都市問題 第5章 生活文化、民族・宗教 ○生活文化の地域性 ○民族・言語・宗教 ○民族問題 ○現代の国家と領土問題
期末考査	○気候と人々の生活 ○日本の自然環境と自然災害 ○世界の環境問題 第2章 産業と資源 ○産業の発展と社会的分業	○工業の立地と工業地域の変容 ○第三次産業 第3章 交通・通信、貿易・観光 ○交通・通信 ○貿易と経済連携 ○観光	
備考			

教科	公民	科目	公共	履修年次	2	単位	2	必修
備考	G (SA) ・ G ・ G 選抜 ・ S							
教科書	183 第一 公共 711 高等学校 新公共							
副教材等								

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
内容のまとめ	A 公共の扉 B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち C 持続可能な社会づくりの主体となる私たち		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	振り返りシートの内容 レポートの内容 等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A）、おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B）、おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考：上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	【公共の扉】 公共的な空間をつくる私たち 第 1 章 公共的な空間をつくる私たち 第 2 章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第 3 章 公共的な空間における基本的原理	第 2 章_政治的な主体となる私たち 主題 4 政治参加と公正な世論形成 主題 5 国際社会と国家主権 主題 6 日本の安全保障と防衛 主題 7 国際社会の変化と日本の役割	主題 12 財政の役割と社会保障 主題 13 経済のグローバル化 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 第 3 編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①排出権取引を考える～地球環境問題 ②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 ③ゲノム編集を考える～生命倫理
期末考査	【自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち】 第 1 章_法的な主体となる私たち 主題 1 法や規範の意義と役割 主題 2 契約と消費者の権利・責任 主題 3 司法参加の意義	第 3 章_経済的な主体となる私たち 主題 8 雇用と労働問題 主題 9 社会の変化と職業観 主題 10 市場経済の機能と限界 主題 11 金融のはたらき	④インターネットによる投票を考える～情報 ⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題
備考	知識以外の表現力や主体的な学習に取り組む姿勢を評価するために適切な時期にレポート等を課す。		

教科	数学	科目	数学 I	履修年次	1	単位	3	⑥・選
備考	G (高入)							
教科書	数研出版 高等学校 数学 I ・高等学校 数学 II							
副教材等	数研出版 REPEAT 数学 I +A・REPEAT 数学 II +B							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力育成することを目指す。		
内容のまとめ	(1)数と式 (2)2次関数 (3)図形と計量 (4)データの分析 (5)複素数と方程式		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連性を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
評価方法	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	定期考査、学習プリント、小テスト、課題 など	学習プリントや課題・レポート等への取り組み内容 など
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	数学Ⅰ 第1章 数と式 第1節 式の計算 ① 多項式の加法と減法 ② 多項式の乗法 ③ 因数分解 ○発展 3次式の展開と因数分解 第2節 実数 ④ 実数 ○研究 数直線上の2点間の距離 ⑤ 根号を含む式の計算 ○発展 2重根号 第3節 1次不等式 ⑥ 不等式の性質 ⑦ 1次不等式 ⑧ 絶対値を含む方程式・不等式 ○研究 絶対値と場合分け	数学Ⅰ 第3章 2次関数 第3節 2次方程式と2次不等式 ⑤ 2次方程式 ⑥ 2次関数のグラフとx軸の位置関係 ○発展 放物線と直線の共有点 ⑦ 2次不等式 ○研究 絶対値を含むグラフ 第4章 図形と計量 第1節 三角比 ① 三角比 ② 三角比の相互関係 ③ 三角比の拡張	数学Ⅰ 第5章 データの分析 ④ 分散と標準偏差 ○研究 変量の変換 ⑤ 2つの変量の間関係 ○研究 統計的探究プロセス ⑥ 仮説検定の考え方 ○研究 仮説検定と反復試行の確率 数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 ① 複素数とその計算 ② 2次方程式の解 ③ 解と係数の関係 第2節 高次方程式 ④ 剰余の定理と因数定理 ○研究 組立除法 ⑤ 高次方程式 ○発展 3次方程式の解と係数の関係
期末考査	数学Ⅰ 第2章 集合と命題 ① 集合 ○研究 3つの集合と共通部分と和集合 ② 命題と条件 ③ 命題と証明 ○研究 $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明 ○発展 「すべて」と「ある」の否定 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ ① 関数とグラフ ② 2次関数のグラフ ○研究 グラフの平行移動 ○研究 グラフの対称移動 第2節 2次関数の値の変化 ③ 2次関数の最大・最小 ④ 2次関数の決定	数学Ⅰ 第4章 図形と計量 第2節 三角形への応用 ④ 正弦定理 ⑤ 余弦定理 ⑥ 正弦定理と余弦定理の応用 ⑦ 三角形の面積 ○発展 ヘロンの公式 ⑧ 空間図形への応用 ○研究 正四面体の体積 第5章 データの分析 ① データの整理 ② データの代表値 ○研究 データの分布と代表値 ③ データの散らばりと四分位数	
備考			

教科	数学	科目	数学Ⅱ	履修年次	2	単位	4	⑤・選
備考	G 文系							
教科書	数研出版 高等学校 数学Ⅱ							
副教材等	数研出版 REPEAT 数学Ⅱ + B							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力育成することを目指す。		
内容のまとめり	(1) 図形と方程式 (2) 指数関数・対数関数 (3) 三角関数 (4) 微分法と積分法		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連性を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 (国立教育政策研究所参照)	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 (国立教育政策研究所参照)	・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。 (国立教育政策研究所参照)
評価方法	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・小テスト・レポートの内容 等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 第3節 軌跡と方程式 [8] 軌跡と方程式 [9] 不等式の表す領域 ○放物線を境界線とする領域 数学Ⅱ 第5章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数 [1] 指数の拡張 ○発展 負の数の n 乗根 [2] 指数関数 第2節 対数関数 [3] 対数とその性質 [4] 対数関数 [5] 常用対数	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第2節 加法定理 [6] 加法定理 ○研究 加法定理と点の回転 [7] 加法定理の応用 ○発展 和と積の公式	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第3節 積分法 [6] 不定積分 [7] 定積分 [8] 定積分と面積 ○研究 曲線と接線で囲まれた部分の面積 ○研究 放物線と x 軸で囲まれた部分の面積
期末考査	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第1節 三角関数 [1] 角の拡張 [2] 三角関数 [3] 三角関数のグラフ [4] 三角関数の性質 [5] 三角関数の応用	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 [1] 微分係数 [2] 導関数とその計算 ○研究 関数 x^n の導関数 [3] 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 [4] 関数の増減と極大・極小 [5] 関数の増減・グラフの応用	
備考			

教科	数学	科目	数学Ⅱ	履修年次	2	単位	4	⑥・選
備考	G 理系							
教科書	数研出版 高等学校 数学Ⅱ・高等学校 数学Ⅲ							
副教材等	数研出版 REPEAT 数学Ⅱ+B・REPEAT 数学Ⅲ+C							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力育成することを目指す。		
内容のまとめ	(1) 図形と方程式 (2) 指数関数・対数関数 (3) 三角関数 (4) 微分法と積分法 (5) 関数(数学Ⅲ) (6) 極限(数学Ⅲ) (7) 微分法(数学Ⅲ)		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連性を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・ 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 (国立教育政策研究所参照)	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 (国立教育政策研究所参照)	・ 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。 (国立教育政策研究所参照)
評価方法	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・小テスト・レポートの内容 等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A), おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B), おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式 第3節 軌跡と方程式 [8] 軌跡と方程式 [9] 不等式の表す領域 ○放物線を境界線とする領域 数学Ⅱ 第5章 指数関数・対数関数 第1節 指数関数 [1] 指数の拡張 ○発展 負の数の n 乗根 [2] 指数関数 第2節 対数関数 [3] 対数とその性質 [4] 対数関数 [5] 常用対数	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 [1] 微分係数 [2] 導関数とその計算 ○研究 関数 x^n の導関数 [3] 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 [4] 関数の増減と極大・極小 [5] 関数の増減・グラフの応用	数学Ⅲ 第2章 極限 第2節 関数の極限 [4] 関数の極限(1) [5] 関数の極限(2) [6] 三角関数と極限 [7] 関数の連続性 第3章 微分法 第1節 導関数 [1] 微分係数と導関数 [2] 導関数の計算 第2節 いろいろな関数の導関数 [3] いろいろな関数の導関数 ○研究 指数関数 $y = a^x$ のグラフと e の関係 [4] 第 n 次導関数 [5] 曲線の方程式と導関数
期末考査	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第1節 三角関数 [1] 角の拡張 [2] 三角関数 [3] 三角関数のグラフ [4] 三角関数の性質 [5] 三角関数の応用 第2節 加法定理 [6] 加法定理 ○研究 加法定理と点の回転 [7] 加法定理の応用 ○発展 和と積の公式	数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第3節 積分法 [6] 不定積分 [7] 定積分 [8] 定積分と面積 ○研究 曲線と接線で囲まれた部分の面積 ○研究 放物線と x 軸で囲まれた部分の面積 数学Ⅲ 第1章 関数 [1] 分数関数 [2] 無理関数 [3] 逆関数と合成関数 第2章 極限 第1節 数列の極限 [1] 数列の極限 [2] 無限等比数列 [3] 無限級数	
備考			

教科	数学	科目	数学 B	履修年次	2	単位	2	⑥・選
備考	G 文系							
教科書	数研出版 高等学校 数学 B・高等学校 数学 C							
副教材等	数研出版 REPEAT 数学 II + B・REPEAT 数学 C							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力育成することを目指す。		
内容のまとめ	(1) 数列 (2) ベクトル (3) 統計的な推測		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連性を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 (国立教育政策研究所参照)	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 (国立教育政策研究所参照)	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。 (国立教育政策研究所参照)
評価方法	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・小テスト・レポートの内容 等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A), おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B), おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	数学 B 第 1 章 数列 第 1 節 等差数列と等比数列 ① 数列と一般項 ② 等差数列 ③ 等差数列の和 ④ 等比数列 ⑤ 等比数列の和 ○研究 複利計算 第 2 節 いろいろな数列 ⑥ 和の記号 Σ ⑦ 階差数列	数学 C 第 1 章 平面上のベクトル 第 1 節 ベクトルとその演算 ① ベクトル ② ベクトルの演算 ③ ベクトルの成分 ④ ベクトルの内積 ○研究 三角形の面積 第 2 節 ベクトルと平面図形 ⑤ 位置ベクトル ⑥ ベクトルの図形への応用 ⑦ 図形のベクトルによる表示 ○研究 点と直線の距離数	数学 B 第 2 章 統計的な推測 第 1 節 確率分布 ① 確率変数と確率分布 ② 確率変数の期待値と分散 ③ 確率変数の和と積 ④ 二項分布 ○研究 二項分布のグラフ ⑤ 正規分布 ○研究 連続型確率変数の期待値, 分散, 標準偏差 第 2 節 統計的な推測 ⑥ 母集団と標本 ⑦ 標本平均の分布 ⑧ 推定 ⑨ 仮説検定
期末考査	数学 B 第 1 章 数列 第 2 節 いろいろな数列 ⑧ いろいろな数列の和 第 3 節 漸化式と数学的帰納法 ⑨ 漸化式 ○研究 $a_{n+1} = p a_n + q$ を満たす数列の階差数列 ○研究 図形と漸化式 ○研究 隣接 3 項間の漸化式 ⑩ 数学的帰納法	第 2 章 空間のベクトル ① 空間の点 ② 空間のベクトル ③ ベクトルの成分 ④ ベクトルの内積 ⑤ ベクトルの図形への応用 ⑥ 座標空間における図形 ○発展 平面の方程式	
備考			

教科	数学	科目	数学 B	履修年次	2	単位	2	⑥・選
備考	G 理系							
教科書	数研出版 高等学校 数学 B・高等学校 数学 C							
副教材等	数研出版 REPEAT 数学 II + B・REPEAT 数学 C							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力育成することを目指す。		
内容のまとめ	(1) 数列 (2) ベクトル (3) 統計的な推測		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	数学における基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連性を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。 (国立教育政策研究所参照)	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 (国立教育政策研究所参照)	・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。 (国立教育政策研究所参照)
評価方法	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・小テスト・レポートの内容 等	定期考査・小テスト・レポートの内容 等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A), おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B), おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	数学 B 第 1 章 数列 第 1 節 等差数列と等比数列 ① 数列と一般項 ② 等差数列 ③ 等差数列の和 ④ 等比数列 ⑤ 等比数列の和 ○研究 複利計算 第 2 節 いろいろな数列 ⑥ 和の記号 Σ ⑦ 階差数列	数学 C 第 1 章 平面上のベクトル 第 1 節 ベクトルとその演算 ① ベクトル ② ベクトルの演算 ③ ベクトルの成分 ④ ベクトルの内積 ○研究 三角形の面積 第 2 節 ベクトルと平面図形 ⑤ 位置ベクトル ⑥ ベクトルの図形への応用 ⑦ 図形のベクトルによる表示 ○研究 点と直線の距離	数学 B 第 2 章 統計的な推測 第 1 節 確率分布 ① 確率変数と確率分布 ② 確率変数の期待値と分散 ③ 確率変数の和と積 ④ 二項分布 ○研究 二項分布のグラフ ⑤ 正規分布 ○研究 連続型確率変数の期待値, 分散, 標準偏差 第 2 節 統計的な推測 ⑥ 母集団と標本 ⑦ 標本平均の分布 ⑧ 推定 ⑨ 仮説検定
期末考査	数学 B 第 1 章 数列 第 2 節 いろいろな数列 ⑧ いろいろな数列の和 第 3 節 漸化式と数学的帰納法 ⑨ 漸化式 ○研究 $a_{n+1} = p a_n + q$ を満たす数列の階差数列 ○研究 図形と漸化式 ○研究 隣接 3 項間の漸化式 ⑩ 数学的帰納法	第 2 章 空間のベクトル ① 空間の点 ② 空間のベクトル ③ ベクトルの成分 ④ ベクトルの内積 ⑤ ベクトルの図形への応用 ⑥ 座標空間における図形 ○発展 平面の方程式	
備考			

教科	理科	科目	化学	履修年次	2	単位	3	必
備考	G クラス							
教科書	高等学校 化学（第一学習社）							
副教材等	セミナー化学（第一学習社）							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。		
内容のまとめり	第一章 物質の状態 第二章 物質の変化と平衡 第三章 無機物質		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。	化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	化学的な事物・現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。
評価方法	・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査	・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト ・定期考査	・ノート提出 ・実験レポート ・小テスト
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が，およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A），およそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B），およそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	第Ⅰ章 物質の状態 第1節 物質の状態変化 ①物質の三態とその変化 ②気体分子の熱運動と圧力 ③飽和蒸気圧と蒸気圧曲線 第2節 気体の性質 ①気体の法則 ②気体の状態方程式 ③理想気体と実在気体	第2節 電池・電気分解 ①電池 ②電気分解 ③電気分解の応用 第3節 化学反応の速さ ①反応速度 ②化学反応の速さと濃度 ③化学反応の速さと温度 ④触媒	第Ⅲ章 無機物質 第1節 周期表と元素の性質 ①元素の分類と性質 ②化合物の性質と周期表 第2節 非金属元素 ①水素 ②18 族元素 ③17 族元素 ④16 族元素 ⑤15 族元素 ⑥14 族元素 ⑦無機化学工業 第3節 典型金属元素 ①1 族元素 ②2 族元素 ③両性を示す典型金属 第4節 遷移元素 ①遷移元素 ②鉄 ③銅 ④銀 ⑤亜鉛 ⑥クロムとマンガン ⑦金属イオンの定性分析
期末考査	第3節 固体の構造 ①化学結合と結晶の種類 ②金属結晶の構造 ③イオン結晶の構造 ④共有結合の結晶の構造 ⑤分子結晶の構造 ⑥非晶質 第4節 溶液の性質 ①溶解と溶液 ②希薄溶液の性質 ③コロイド 第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第1節 化学反応と熱・光 ①化学反応とエンタルピー変化 ②ヘスの法則 ③結合エネルギー ④化学反応と光 ⑤エントロピー	第4節 化学平衡 ①可逆反応と化学平衡 ②平衡定数 ③平衡移動 第5節 電離平衡 ①電離平衡と電離定数 ②電離定数と pH ③塩の性質と反応 ④緩衝液と緩衝作用 ⑤溶解度積	
備考	前年度の進行状況により、「第Ⅱ章 物質の変化と平衡 第2節 電池・電気分解」が年度当初の範囲になる場合があります。		

教科	理科	科目	生物基礎	履修年次	2	単位	2	必
備考	グローバルクラス							
教科書	高等学校 生物基礎（数研出版）							
副教材等	数研出版編集部編、『リード α 生物基礎』（数研出版）							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との連携を図りながら、生物や生命現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技術を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
内容のまとめ	1. 生物の特徴 2. ヒトの体内環境の維持 3. 生物の多様性と生態系		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生物学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身につける。	生物や生物現象に関して、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもって振り返るなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期考査・授業内で行うテスト・実験/実習等への取り組みの様子を総合的に判断して評価する。	定期考査・授業内で行うテスト・実験/実習等への取り組みの様子を総合的に判断して評価する。	定期考査・授業内で行うテスト・実験/実習等への取り組みの様子を総合的に判断して評価する。
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	序章 生物基礎を学ぶにあたって探究のプロセス 第 1 章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 生物の多様性, 生物の多様性・共通性とその由来, 生物の共通性としての細胞 2. エネルギーと代謝 生命活動とエネルギー, 代謝とエネルギー, ATP	第 2 章 遺伝子とそのはたらき 3. 遺伝情報の発現 遺伝情報とタンパク質, タンパク質の合成, 分化した細胞の遺伝子発現, 遺伝情報と遺伝子, ゲノム 第 3 章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 体内での情報伝達, 神経系による情報の伝達と調節, 内分泌系による情報の伝達と調節	第 4 章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 植生, 植生の遷移 2. 植生の分布とバイオーム バイオームの成立, 世界のバイオーム, 日本のバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 生態系の成り立ち, 生態系と種多様性, 生物どうしのつながり 4. 生態系のバランスと保全 生態系のバランス, 人間の活動と生態系, 生態系の保全
期末考査	第 1 章 生物の特徴 3. 呼吸と光合成 呼吸, 光合成, エネルギーの流れ, 酵素 第 2 章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報と DNA 遺伝情報を含む物質-DNA, DNA の構造 2. 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の複製, 遺伝情報の分配	第 3 章 ヒトの体内環境の維持 2. 体内環境の維持のしくみ 体内環境の維持, 血糖濃度調節のしくみ, 血液の循環を維持するしくみ 3. 免疫のはたらき からだを守るしくみ-免疫, 自然免疫, 適応免疫, 免疫と病気	
備考	夏期に実験実習・演習・補習等を行う	夏期に実験実習・演習・補習等を行う	春期に実験実習・演習・補習等を行う

教科	理科	科目	生物	履修年次	2	単位	5	選
備考	グローバルクラス							
教科書	高等学校 生物基礎, 高等学校 生物 (数研出版)							
副教材等	数研出版編集部編『リード α 生物基礎+生物』(数研出版)							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (4) 日常生活や社会との連携を図りながら、生物や生命現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技術を身に付けるようにする。 (5) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (6) 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
内容のまとめ	【1 学期】 4. 生物の特徴 5. ヒトの体内環境の維持 6. 生物の多様性と生態系	【2・3 学期】 1. 生物の進化 2. 細胞と分子 3. 代謝 4. 遺伝情報の発現と発生	5. 動物の反応と行動 6. 植物の環境応答
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生物学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的に探究するために必要な知識や技能を身につける。	生物や生物現象に関して、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	自然に対する関心を高め、事物・現象を科学的に探究しようとする態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもって振り返るなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期考査・授業内で行うテスト・実験/実習等への取り組みの様子を総合的に判断して評価する。	定期考査・授業内で行うテスト・実験/実習等への取り組みの様子を総合的に判断して評価する。	定期考査・授業内で行うテスト・実験/実習等への取り組みの様子を総合的に判断して評価する。
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。		
備考：上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。なお、1 学期末で生物基礎を評価し、それに基づき 2・3 学期で生物を評価する。			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	序章 生物基礎を学ぶにあたって探究のプロセス 第 1 章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成 第 2 章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報と DNA 2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	第 1 章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性 3. 遺伝子の組み合わせの変化 4. 進化のしくみ 5. 生物の系統と進化 6. 人類の系統と進化 第 2 章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	第 5 章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容 2. ニューロンとその興奮 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動 第 6 章 植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節 5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精
期末考査	第 3 章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 免疫のはたらき 第 4 章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	第 3 章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 第 4 章 遺伝情報の発現と発生 1. DNA の構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. 発生と遺伝子発現 5. 遺伝子を扱う技術	
備考	夏期に実験実習・演習・補習等を行う	夏期に実験実習・演習・補習等を行う	春期に実験実習・演習・補習等を行う

教科	保健体育	科目	体育	履修年次	2	単位	2	必・選
備考	全コース							
教科書	新高等保健体育(大修館書店)							
副教材等	新高等保健体育ノート(大修館書店)							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。		
内容のまとめ	体づくり運動、体育祭種目 体力テスト 体育理論 テニス・バスケットボール・ソフトボール・バードゴルフ・バレーボール・ダンス		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競走や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている。	運動における競走や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲が備わり、健康・安全を確保して継続して運動に親しむ態度が身に付いている。
評価方法	実技試験、保健体育ノート等	実技試験、保健体育ノート等	授業中の取り組みや発言、等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A），おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B），おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考：上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

2 学習单元

单元学习内容	1 学期	2 学期	3 学期
前半	・オリエンテーション ・集団行動、体づくり運動 ・体育祭種目	・選択種目 バードゴルフ バスケットボール ソフトボール バレーボール テニス	・選択種目 バードゴルフ バスケットボール ソフトボール バレーボール テニス ・体育理論
後半	・体力テスト ・体育理論	・選択種目 バードゴルフ バスケットボール ソフトボール バレーボール テニス ダンス(女子) ・体育理論	
備考	コロナ感染状況によって種目の変更があります。		

教科	保健体育	科目	保健	履修年次	2	単位	1	必・選
備考	全コース							
教科書	新高等保健体育(大修館書店)							
副教材等	新高等保健体育ノート(大修館書店)							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。		
内容のまとめ	・生涯を通じる健康 ・健康を支える環境づくり ・安全な社会生活		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。	健康についての自他や社会の課題を発見し合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	定期考査、ワークシート、保健体育ノート等	定期考査、ワークシート、保健体育ノート等	授業中の発表、保健体育ノート等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A），およそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B），およそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考： 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
期末考査	生涯を通じる健康 ・ 加齢と健康 ・ 高齢社会に対応した取り組み ・ 働くことと健康 ・ 労働災害の防止 ・ 働く人の健康づくり	安全な社会生活 ・ 事故の現状と発生要因 ・ 交通事故防止の取り組み ・ 安全な社会の形成 ・ 応急手当の意義と救急医療体制 ・ 日常的な応急手当 ・ 実習	健康を支える環境づくり ・ 保健制度とその活用 ・ 医療制度とその活用 ・ 医薬品の制度とその活用 ・ 様々な保健活動や対策
備考			

教科	家庭	科目	家庭基礎	履修年次	2	単位	2	◎・選
備考	全コース							
教科書	Agenda 家庭基礎（実教出版）							
副教材等	最新版 楽しく学べるマナーの本（教育図書）							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	生活様式の多様化が進む現代社会において、主体的に生活を営み、生活の充実向上を生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。		
内容のまとめ	1. 私たちの今 私たちのこれから 2. 持続可能な未来に向かって		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけるようにする。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を養う。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践する力を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価方法	定期考査・作品・プリント・小テスト・レポート・ノート等	定期考査・作品・プリント・小テスト・レポート・ノート等	定期考査・作品・プリント・小テスト・レポート・ノート等
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、おおよそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A）、おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B）、おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考： 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学期毎に通知する。学年末には5段階の評定に総括する。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
期末考査	被服実習① 1. 私たちの今 私たちのこれから 1 章 自分・家族 —多様化した社会に生きる— 2 章 子ども —子どもと生きる— 調理実習① 6 章 衣生活 —選んで着る—	被服実習② 2. 持続可能な未来に向かって 8 章 消費・環境 —消費社会を生きる— 金融生活実習 7 章 住生活 —人間らしく住む— 被服実習③ 1. 私たちの今 私たちのこれから 5 章 食生活 —楽しく安全に食べる— 調理実習②	被服実習③ 1. 私たちの今 私たちのこれから 3 章 高齢者 —高齢者と生きる— 2. 持続可能な未来に向かって 4 章 —社会福祉— 支えあい共に生きる 茶道実習
備考	学習状況に応じて、予定進度の変更、調理・茶道等の実習の実施時期変更や社会情勢に応じて実施を見直す場合があります。	学習状況に応じて、予定進度の変更、調理・茶道等の実習の実施時期変更や社会情勢に応じて実施を見直す場合があります。	学習状況に応じて、予定進度の変更、調理・茶道等の実習の実施時期変更や社会情勢に応じて実施を見直す場合があります。

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	履修年次	2	単位	4	必・選
備考	G・G選抜・S							
教科書	ELEMENT English Communication Ⅱ							
副教材等	サブノート、CNN（選抜クラス）							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 具体的な言語活動は以下の通りである。 1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。		
	1. コミュニケーションへの関心・意欲・態度 教科書など様々な英文の記事に関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする 2. 外国語表現の能力 適切な語句や文法を用いて、話したり書いたりしながら、自分の考えを的確に表現している。 3. 外国語理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、相手の意向などを適切に理解している。 4. 言語や文化についての知識・理解 英語学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけ、その背景にある文化などの状況も適切に理解している。		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・4技能5領域（聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり）・話すこと（発表）・書くこと）について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基本的な語彙、文法、構文の知識を身につけ、活用することができる。 ・言語学習を通じて、言語の働きや役割を適切に理解することができる。	・場面、目的、状況等に応じて、日常的话题から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを分析的に適切に理解し、論理的に的確に伝え合うことができる。 ・聞いたり読んだりしたこと等を自分の意見や考え等を適切に話したり書いたりして伝えることができる。	・相手を尊重し、配慮しながら英語で聞いたり読んだりしたことを十分に活用し、自分の意見や考えを適切に話したり書いたりして表現しようとする。 ・言語や背景にある文化などの状況に対して積極的に関心を持ち、自律的、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	文法項目の特徴や決まりを理解し、英文の読み取りや聞き取りを適切に理解することができる。また、それを場面・状況を踏まえて、書いたり話したりしながら、相手に内容を適切に伝えるために既習の文法や語句の知識を活用することができるかを図る。 ペーパーテストやパフォーマンステスト等を有効的に活用する。	目的や場面、状況を設定した言語運用課題を通して、日常的・社会的な話題・内容について理解し、他者と自分の考えなどをパフォーマンステスト等で、どの程度表現し合うことができるかを図る。 その際、コミュニケーションの目的を設定し、内容およびタスクなどの課題を提供し、領域別の目標を共有する。	自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を主体的に進め、その過程を評価して新たな学習につなげるために自己調整を行いながら、粘り強く知識、技能を獲得したり、思考・判断・表現をしようとしたりしようと努力しているかを図る。 学習の振り返りシートなどを有効的に活用する。
評価方法	・定期考査 ・LEAP 単語テスト ・オンライン英会話 ・スタディサプリ/スタディサプリ English ・スピーキング・ライティング課題 ・提出物 ・GCP	・定期考査 ・LEAP 単語テスト ・オンライン英会話 ・スタディサプリ/スタディサプリ English ・スピーキング・ライティング課題 ・提出物 ・GCP	・定期考査 ・LEAP 単語テスト ・オンライン英会話 ・スタディサプリ/スタディサプリ English ・スピーキング・ライティング課題 ・提出物 ・GCP

評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。
備考：	

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	Lesson 1 Cultures around the World Lesson 2 Power of Words ・ ペットの世話に関する語彙・表現 ・ 現在完了/現在完了進行形 ・ 分詞の限定用法	Lesson 5 How Our Minds Work ・ 野球に関する語彙・表現 ・ 関係代名詞の what ・ 関係副詞 Lesson 6 IT and Life ・ 英文の書き方に関する語彙・表現 ・ 国際連合 ・ 関係代名詞の限定用法 ・ 分詞構文	オリジナル教材 SDGs 等と関連する時事問題に関する英文 ・ 英検準 2 級/2 級レベルの語句 ・ 高校で学習する基本的な文法項目の復習
期末考査	Lesson 3 Preconception ・ エベルギー・公害に関する語彙・表現 ・ 関係代名詞 ・ 使役動詞・to 不定詞 Lesson 4 The Century of War ・ 国際連合・平和維持活動に関する語彙・表現 ・ 過去完了形 ・ 知覚動詞	Lesson 7 Advances in Medical Technology ・ 実験室に関する語彙・表現 ・ 形式主語の it ・ be 動詞の補語になる that 節 Lesson 8 A Tiny Step, a Big Impact ・ 人権・福祉に関する語彙・表現 ・ 仮定法過去 ・ 仮定法過去完了 ・ 過去完了進行形	
備考			

教科	外国語	科目	論理と表現Ⅱ	履修年次	2	単位	2	必・選
備考	G・G選抜・S							
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression Ⅱ 桐原書店							
副教材等	総合英語 FACTBOOK これからの英文法 桐原書店							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	ア 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 イ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。		
内容のまとめ	様々なトピック（①経済・社会、②環境・資源、③生活・健康、④消費・産業、⑤平和・公正）について分析的に思考し、基本的な文法事項を活用しながら、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの3つの領域において、論理的に表現すること力を養う。		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	基本的な文法事項を理解し、適切に使うことができる。	与えられた状況に合わせて、既習事項の文法事項を活用しながら、適切に表現することができる。	与えられたトピックに対して、主体的に考え、相手に理解してもらえるよう論理的に伝えようとしている。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既知の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。
評価方法	・ 定期考査 ・ スタディサプリ ・ 提出物 ・ パフォーマンステスト ・ スピーキング課題 ・ ライティング課題	・ 定期考査 ・ スタディサプリ ・ 提出物 ・ パフォーマンステスト ・ スピーキング課題 ・ ライティング課題	・ 定期考査 ・ スタディサプリ ・ 提出物 ・ パフォーマンステスト ・ スピーキング課題 ・ ライティング課題
評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況（A）、およそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況（B）、およそ 30%未満の場合、努力を要する状況（C）として評価する。		
備考：			

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考查	Unit 1 How should we lead a healthy lifestyle? (文型に拡張・主語の拡張) Unit 2 Steps we can take to Zero Hunger (文型の拡張：目的語・説明語句の拡張) Thinking Logically 1	Unit 5 Which should get more priority: culture or the environment? (時を表す表現) Unit 6 How to live a plastic-free life (受動態) Thinking Logically 3	Unit 9 Produce locally, consume locally (強調・倒置・省略・話法等) Unit 10 Sharing as one way to create new value (否定) Thinking Logically 5 Community living, community thriving
期末考查	Unit 3 What are good and bad sides of urbanization? (修飾による拡張：名詞の説明) Unit 4 Is your city sustainable enough? (修飾による拡張：動詞句の説明、文の説明) Thinking Logically 2	Unit 7 Helping others at home and abroad (助動詞および仮定法) Unit 8 Challenges to equality (比較) Thinking Logically 4	
備考			

教科	国語	科目	現代の国語	履修年次	2	単位	2	必・選
備考	G							
教科書	精選論理国語（三省堂）							
副教材等	筑摩書房『読解 評論文キーワード』 浜島書店『ことばを広げる 新漢字ノート』 数研出版『クリアカラー国語便覧』							

1 教科の目標・評価基準 等

教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
内容のまとめ	〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 書くこと B 読むこと		
科目の目標	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	定期考査、各種確認テスト、パフォーマンス課題 等	授業中の活動状況、各種ふり返り記述、パフォーマンス課題 等

評価基準	評価方法によって収集した評価資料の達成率が、およそ 70%から 100%の場合、充分満足できる状況 (A) , おおよそ 30%から 70%の場合、概ね満足できる状況 (B) , おおよそ 30%未満の場合、努力を要する状況 (C) として評価する。
備考： 課題の提出状況や日常の授業態度に問題がある場合は、単元に対する評価に加えて諸事情についても考慮して最終的な評価については成績づけを行う。	

2 学習単元

単元学習内容	1 学期	2 学期	3 学期
中間考査	一 論理国語へのいざない ・ 構造と内容の把握 ・ 精査・解釈 ・ 情報の整理 二 「情報社会」を生きるⅠ ・ 精査・解釈 ・ 考えの形成 ・ 共有	三 環境問題を考える ・ 精査・解釈 ・ 情報と情報の整理 五 生命について考える ・ 情報の収集 ・ 考えの形成 ・ 情報と情報の整理	四 経済について考える ・ 考えの形成 ・ 推敲 ・ 共有 ・ 情報と情報との整理 ・ 情報の整理 五 国際社会を考える ・ 考えの形成 ・ 共有 ・ 情報の整理
期末考査	四 言葉をみつめるⅠ ・ 内容と構造の把握 ・ 精査・解釈 ・ 情報と情報との関係 六 芸術について考える ・ 題材の設定 ・ 情報の収集 ・ 内容の検討 ・ 考えの検討	七 科学技術と人間 ・ 構造と内容の把握 ・ 精査・解釈 ・ 考えの形成 一 「情報社会」を生きるⅡ ・ 考えの形成 ・ 共有 ・ 情報の整理	
備考	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また、教科書以外の資料(実用的な文章等)を用いて授業する場合もあります。	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また、教科書以外の資料(実用的な文章等)を用いて授業する場合もあります。	授業数によっては適宜、単元の増減があります。 また、教科書以外の資料(実用的な文章等)を用いて授業する場合もあります。